

楽しく働き、多くの人に喜ばれる花を届ける！

あきたで活きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



羽後町 高橋 有佳理
(農事組合法人 足田営農組合)

経営概況

経営面積 | 水稲 30ha、ハウス 18 棟
作 物 | 水稲、花き、野菜
販 売 先 | JAうご、道の駅等
社 員 | 代表理事ほか 10 名

羽後町の農家で3姉妹の末っ子として生まれ、父の影響を受け農業に魅力を感じた高橋さん。県の「未来農業のフロンティア育成研修」を経て 2012 年に就農し、主に花き栽培を担当。湯沢市で開催された「第 148 回秋田県種苗交換会」に出品した切り花トルコギキョウの「エレスライトピンク」で、秋田県知事賞を受賞しました。

▶ きっかけ

農業に囲まれた環境で育ち、農家として働く父の姿から、自然に就農を考えた高橋さん。高校卒業後、2年間の「未来農業のフロンティア育成研修」後、父の今泉 久さんが代表を務める「農事組合法人 足田営農組合」で就農しました。



鮮やかに色づく葉ボタン

昨今の各種資材の高騰、夏の高温や大雨、冬の雪対策に苦慮していますが、代表を含む社員一同で協力しながら対応しています。

「同世代のサラリーマンは、大変そうに見える。」と話す高橋さん。同法人では、労働力確保のため柔軟な勤務体系を導入していることから、毎朝お子さんを保育園に送り届けてから出勤するなど時間を有効に活用できています。また、収入も安定しており、毎日、充実した生活をおくれています。



種苗交換会表彰式での高橋さん

愛情を注ぎ、大切に育てたトルコギキョウを今年の秋田県種苗交換会へ出品したところ、見事に秋田県知事賞に輝きました。

▶ これから

「花の栽培は、その花の状態に合わせた管理が必要なため手が掛かるが、法人の一員として高品質の花を安定して出荷できるよう、さらなる技術の向上を目指している。自分の伸びしろはまだまだある。特にトルコギキョウに力を入れ、多くの人に喜んでもらえるよう、楽しみながら究めていきたい。」との事。



冬期間は羽後町特産のふくたちも担当
(はくさいを寒い時期に育て結球させずに収穫する)

また、『花きは、比較的価格が安定している状況にあるが、安価な年もある。昔から父がよく言っていた「いい時もあれば悪い時もある。波があるのが農業だ。』の意味がわかり始めてきた。』と話して下さいました。

(●印写真:うご農業協同組合提供)



東北農政局秋田県拠点

発行:東北農政局秋田県拠点地方参事官室 TEL 018-862-5611

農林水産省